

句集

発火点

江島照美

身の秋の

どうにもならぬ

二籠り

華やかな雰囲気を持つ作者だが、夫の会社経営を支えるかたわら、二人の子を育て、四人の孫を持つ作者は堅実派で、物事を慎重に考える。

句集に流れる抒情性は、自己を客観視する冷静な目と柔らかな心に裏付けられているのだと思う。

高橋将夫



花
虻
の
翅
音
ば
か
り
の
昼
の
園

ア
ネ
モ
ネ
や
今
は
昔
の
鹿
鳴
館

闇夜にもうかぶ白さや雪柳

しまはずによしと思ふ日春炬燵

日光が花に溢れてチューリップ

貝を掘り尽くす人出や汐干狩

春
昼
の
時
計
の
時
刻
み
な
違
ふ

揺
り
籠
の
や
う
に
舟
揺
れ
春
の
波

縄
文
の
世
も
か
く
あ
ら
む
汐
干
狩

総
檜
造
り
の
客
間
君
子
蘭

何するとなくも起きみて夜半の春

色でいふなら真珠色春の夢

千年を経たれば亀の鳴くと云ふ

子が手より大き葉をはぎ柏餅

人目ひく葉よりも目立ち棕櫚の花

芥子坊主酔ひたるごとくふらつける

ねぢ花のねぢれながらも真直ぐ立つ

神木の走り根おほひ苔の花

クイーンてふ名のつく薔薇の中の薔薇

今のこの色でとどまれ濃紫陽花

池おほひ尽くし池消ゆ布袋草

鯉跳ねし跡を萍はや閉ぢぬ

留守番の昼餉とバナナの房出さる

優曇華の文字もなにやら謎めける

本年も去年の鉢出し金魚飼ふ

腕のべて止まり来し蚊をまた叩く

ぼうふらの疲れ知らずの浮沈かな

つかまへて意外と軽し黄金虫

黒飴がメツカの石めき蟻の列

大蛇の腹が膨れてゐたとも云ふ

南極がテレビに映る涼しさよ

見つけたの声に乱舞の捕虫網

所在なき時にふと開け冷蔵庫

切れさうで切れぬ細さよ冷さうめん

焼く人も鰻も焦熱地獄の日

諸肌を脱いで見てゐる大相撲

触れ合ひて音の涼しさグラス選る

骨抜きにされたるままに冷さうめん

白日傘光の海を航ゆくごとし

賑やかな夜店の裏の真暗がり

青春の色と香りやレモン買ふ

さう言へば手榴弾にも似て檸檬

コスモスや乙女ごころは揺れやすく

わが力瘤より大き諸を掘る

はぐれたる末に見つけぬ松茸狩

天罰を受けしがごとく石榴裂く

実石榴のつぎつぎ裂けて潔し

あまたなる視線が出合ふ月見かな

生まるるも死ぬるも共に菊人形

地球儀を廻してつのである秋思かな

江島照美（えじま・てるみ）

昭和二十八年十二月 熊本県に生まれる

昭和五十二年 関西学院大学社会学部卒業

平成十五年 「雲の峰」入会

平成二十年 「槐」入会

平成二十一年 「槐」同人

平成二十九年 槐賞受賞

令和元年 槐安集同人

関西現代俳句協会理事・現代俳句協会会員



句集 発火点 はっかてん

女性俳人精華 第8期第1巻

発行 令和元年九月二日

著者 江島照美

発行者 姜琪東

発行所 株式会社文学の森

〒一六九〇〇七五

東京都新宿区高田馬場二丁目二 田島ビル八階

tel 03-5292-9188 fax 03-5292-9199

e-mail mori@bungak.com

ホームページ <http://www.bungak.com>

印刷・製本 有限会社青雲印刷

©Terumi Ejima 2019. Printed in Japan

ISBN978-4-86438-844-3 C0092

※一冊一本はお取替えいたしません。